



開催直前 ソフトボール大会(4/28) 応援特集



4月28日の本大会に向けて、各チーム一層熱心に練習に取り組まれているものと思います。先月号に掲載した各チームのコメントからキーワードを集約し、見えてきた本大会のテーマは「勝ちへの執念と団結力」。当日は最後の一球まで諦めない、熱い試合が数多く展開されること必至です。本号では、本番に先立ってルールのおさらい記事を集めます。

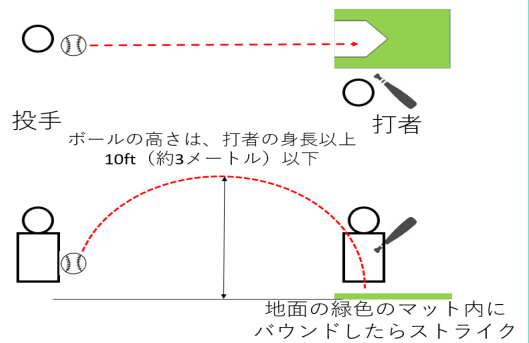
新ルール：本大会より、①各バッター1ボール1ストライクからの開始とし、2ストライクから2回目のファウルはアウト、②一度ベンチに下がった女性及び子供枠の選手の再出場可(但し再出場の場合は同じ打順に限る)、の2点が新ルールとして導入されました。これは、試合進行を円滑且つ柔軟にすることで、より多くの選手がプレーに参加することを促し、長丁場のトーナメント方式の中で皆が助け合い、補い合いながら優勝を目指す、まさに「勝ちへの執念と団結力」を具現化したともいえる(?)新ルールとなります。

試合時間：一試合は7イニング制、但し60分を超えた時点で新しいイニングには入りません。例えば、6回裏が終了した時点で試合開始から59分であれば7回表裏も実施、6回裏が終了した時点で試合開始から61分経過していればその時点で試合終了、といった具合です。1イニング毎の時間が延びると、4、5回程度で終了になることもあります。

選手選考：各チームは2名以上の女性/子供、及び2名以上の40歳以上の選手を常時出場させる必要があります。また、女性/子供が打つ時は外野手ローバーがボールを触った時点でヒットとなり、ワンベースが与えられます(フライを含む)。女性/子供が打つ時にどのような守備隊形を取るのか、また女性/子供にどのポジションを守らせるのがポイントになります。

打つ：新ルールの導入により、各バッター1ボール1ストライクから開始することになるため、昨年までの大会以上に積極性、確実性が求められます。チームによっては、相手の守備の薄いところを狙う容赦ない“テクニシャンタイプ”のバッターもいるようです。ご注意ください。ソフトボールはボールが大きくて飛び辛い一方で、塁間が狭いので外野の頭を超えればランニングホームランになりやすいです。ホームランは野球の華。大谷選手のような豪快なバッティングに期待しましょう！

投げる：本大会は初心者でも打ちやすいスローピッチのルールが採用されています。また、2ストライクから2回目のファウルはアウトになります。ピンチの場面でも落ち着いたピッチングができるか否かが試合のカギとなります。



走る：ランナーはバッターがボールを打ってからでないとベースを離れてはいけません(盗塁も禁止)。これにより、フォースアウト(*)が多くなる傾向にあり、守備の選手とランナーの交錯リスクを低減するため、ホームベースと一塁ベースは守備用とランナー用で分けてそれぞれ2つずつ設置されています。また、三本間の中間地点を越えた時点で三塁に戻ることはできず、その場合は意を決して本塁に突入する必要があります。

(*)ランナーが次塁に達する前に、野手がボールを持ってランナー或いは次塁に触れてアウトにすること

守る：守備は10名。通常の9名に加えて、フレキシブルに配置可能な「ローバー」というポジションがあります。バッターが強打者の時は4人目の外野手として、内野ゴロのアウトが欲しい場面では二遊間を固める等、様々な戦略が考えられます。スローピッチの特性上、右打者はレフト方面、左打者はライト方面に強い打球を飛ばすことが多く、相手バッターや状況に合わせた守備位置変更にも注目です。

(編集委員 来見圭祐)

トーナメント表

トーナメント表は以下の通りです。さて、栄冠は誰の手に!?

○の数字は試合順
ローマ数字はグラウンド番号

